


認知症ケアの流れ(経過と対応)

経過には個人差がありますので、必ずしもこのとおりではありませんが、大まかなめやすとしてください。

	元気な時期～認知症予備軍	症状が出始める時期	症状が多く出てくる時期	身体症状も出る時期	言葉によるコミュニケーションが難しくなる時期
生活	自立して生活できる	手助けがあれば生活できる	生活支援に加え介護も必要になる	介護が多くの場面で必要になる	ほぼ全面的な介護が必要になる
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> もの忘れの自覚がある 言葉が出にくく「あれ」「それ」と言う 何かヒントがあれば思い出せる 	<ul style="list-style-type: none"> 同じことを何度も聞く 置き場所を探し回る 約束したことを忘れる 物を盗られたと言う 話をとり繕う 不安、イライラ、焦り、抑うつ 自信喪失 買い物の小銭が払えない 	<ul style="list-style-type: none"> 料理が上手くできない 季節に応じた服が選べない 今まで使っていた電化製品、機器が使えない 自分の年齢を若く言う 外出先から家へ戻れない 食べ物をあるだけ食べる 	<ul style="list-style-type: none"> 箸など道具を使えない、一人で食事ができない 飲食物をうまく飲み込めない 食べ物以外のものを口に入れようとする 一人で着替えができない 言葉が理解しにくい 尿意や便意を感じにくい うまく歩けない 	<ul style="list-style-type: none"> 日中うつらうつらしていることが多い 言葉が減り、声かけへの反応が少なくなる うまく飲み込めない、口から食事がとりにくくなる
記憶		直近のことを覚えられない	いつ、どこで、何をしたか忘れる	子どものころ、若いころの記憶の世界で生きる	
場所・日時・人物		時間や日にちが分からなくなる	季節年次が分からなくなる	近所で道に迷う 親しい人が認識できなくなる	
対応のポイント	<p>家事などを続け、手先や頭を使う閉じこもりにならないように、趣味をもつなど日常生活を活発に過ごす</p> <p>本人の気持ち できることは自分でしたい。役に立ちたい。役割がほしい…。</p> 	<p>大事な事や出来事は書きとめる</p> <p>ゆっくり、短い言葉で、一つずつ伝える</p> <p>時間の見当がつく工夫をする。(季節感のあるカレンダー・デジタル時計、おはようございます、こんにちはなどの挨拶)</p> <p>できることもたくさん残っている。趣味や仕事で養ってきた得意分野を生かすと昔の記憶がよみがえり、心の安定につながる</p> <p>道に迷わないよう外出時は目印を決める</p>	<p>説得より、その場の納得(理論での説得は無理)一緒に行動するなど気持ちを受け止めると、そのうち忘れて気持ちがわることもある</p> <p>自然の風や光に適度にあたる 思い出の風景を散歩するだけでも昔がよみがえり、安心につながる</p> <p>昔の思い出に触れたり、なじみの歌を楽しむことによりその時の気持ちがよみがえり安心につながる</p>	<p>身体管理を十分に行う 自分で訴えることが難しいので、水分や食事、排泄など状況を観察する 落ち着かない様子は身体状況からきていることもある</p> <p>言葉以外のサインを大切に 表情やしぐさなどから気持ちを読み取る 背中をさするなどで安心感を与える</p>	
ご家族や身近な方へ	<ul style="list-style-type: none"> 本人の役割を作りましょう 例：家事、孫の世話、ペットの世話等 本人への声掛けをしましょう 会う機会を増やしましょう 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の症状や、介護について勉強しましょう 近い親戚や本人の親しい人には症状について伝えておくのも良いです 	<ul style="list-style-type: none"> 介護サービスを利用したり、家族の集いの場を利用しましょう 戸惑うような出来事が多い時期、専門家に相談したり同じ悩みをもつ家族の会の仲間と話し、負担を軽減しましょう 今後の見通しを立て、介護や金銭管理などについて考えておきましょう 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の視点に立って、延命処置や医療をどの程度行うかなど、家族で相談しておきましょう 	

